

条幅部自由参考

11月25日正午必着

明石春浦先生書



夜半樟亭驛 愁人起望鄉
月明何所見 潮水白茫茫

(白樂天)

樟亭驛は杭州の銭塘江畔にあつて、観潮の名所樟樓あり。愁人は旅人、ここでは作者。作者が杭州の役人時代の作か。白茫茫―月光にかすむ。故郷は遙か、望むに由ない。眼前ただ月明に白茫茫たる水面あるのみ。

明石幸子書



み吉野の山の秋風 夜ふけて ふるさと寒く 衣うつなり (新古今集・藤原雅経)

吉野の山から吹く秋風は、夜が更けて、麓の故里は寒く、衣を打つ音が聞える。

楓落早鴻過 洞庭無限波
相望終不見 只是白雲多

雨宮春聲先生書

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

楓落早鴻過 洞庭無限波
相望終不見 只是白雲多 (宋 樂)

楓の葉が落ちてはや雁が渡って行った。広い洞庭湖は一面に波立っている。辺りには何も見えず、空にただ白雲のみが浮かんでいるばかりである。

養神和氣 (淮南子)

養神和氣

精神を養うには先ずその氣もちをやわらげる
ことより始むる。

揮毫對客風生座
載酒論詩月滿篷

(鄧文原)

毫を揮い客に対すれば風座に生じ、
酒を載せ詩を論ずれば、月篷に満つ。

客に対して揮毫していると清風が座中に入り
酒を携えて舟中に詩を論じていると、月光は
船窓にさしこむ。

秋日別王長史 (王勃)

秋日 王長史に別る 王勃

別路千餘里 深恩重百年
正悲西候日 更動北梁篇
野色籠寒霧 山光斂暮煙
終知難再奉 懷德自潸然

別路 千余里 深恩 百年に重し
正に西候の日を悲しみ 更に北梁の篇を動かす
野色 寒霧を籠め 山光 暮煙を斂む
終に知る 再び奉じ難きを 徳を懐うて 自ら潸然たり

あな寒とたださりげなく言ひさして

我を見ざりし 乱れ髪の君

(与謝野鉄幹)

半紙部規定課題A

11月25日正午必着

房 花
春 暗
々 竹

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

11月25日正午必着

行書

花暗竹
房春

隸書

華暗竹
房春

明石春浦先生書

草書

花暗竹
房春

行草書

花暗竹
房春

お逢いしても何のもてなしもできず、ただともに道を語り合うだけ、貧乏なことは誰でも周知のこと
帰り行く道すじに、降り残る雨は分たれて 舟をとどめ、親しき友に別れをつける
松木立の茂る山上の夜明け、霜が明るくかがやき 竹やぶの中の住居は春となり、花のしげみは暗い
私もかねがね隠遁したいとは思っているのだが いつになったら、君の住む山中に身を寄せることができるのだろう

送人歸山

石召

相逢惟道在
誰不共知貧
歸路分殘雨
停舟別故人
霜明松嶺曉
花暗竹房春
亦有棲閑意
何年可寄身

人の山に帰るを送る

石召

相逢うて 惟だ道のみ在り
相違うて 誰か共に貧なることを知らざらん
帰路 残雨を分かち
舟を停めて 故人に別る
霜は明らかなり 松嶺の暁
花は暗し 竹房の春
亦た棲閑の意有り
何れの年か 身を寄す可き

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

臨書課題・半紙部参考



三浦士岳先生臨書



罍…栗。柞棧其…櫟榕。曷曷鳴…亞箸其華…爲所序斃…塾導。二日樹…五日。



清 吳昌碩・臨石鼓文

吳昌碩は一八四四年（道光二十四年）に、浙江省安吉県鄣呉村の挙人の家に生まれ、一九二七年（中華民國十八年）十一月、上海の寓居で卒した。名は俊、俊卿、字は昌碩、蒼石、倉石、号は缶廬、苦鉄、石人子など数多い。

はじめ父の辛甲から教育を受け、十歳の頃には隣村の私塾に通い学んだ。十七歳の時、太平天国の乱によって一家は離散、彼は湖北省・安徽省を転々として難を逃れ、五年後の二十一歳の時、ようやく故郷へ戻った。二十二歳の時、試験を受けて「秀才」の資格をとったが、官界にはあまり興味をもたなかったという。二十九歳のとき故郷を出て、杭州・蘇州・上海に遊学し、多く文人から影響を受けた。詩・書・画・篆刻ともに精通し、「四絶」と称賛され、清代最後の文人といわれた。

石鼓文は中国最古の石刻で、太鼓状の石に刻されているのでこの名がある。高さ約九〇センチ、直径六〇センチほどで、全十石から成る。小篆と古文の両面を備えており、吳昌碩の臨書は原本の石鼓文よりさらに縦長になっている部分が多くある。特に脚部に見ることが多く、小篆に近い姿になっているといわれており、原本と比較しながらの臨書も重要な臨書姿勢ではないか。

この臨書は七十五歳の時のもので、技術的に完成した傑作といわれている。（春濤）

11月25日正午必着



至
樂
(大戴礼)
この上なく楽しい。

△做書参考作品▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。



柞椹其：櫛櫛膏膏鳴：亞箬其華。：爲所旂豷：豷。

11月25日正午必着

教育部毛筆



えどひゃっけい
江戸百景

中学一年

雨宮春聲先生書



そうりだいじん
総理大臣

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



みの 実^{あき}りの秋

小学五年

榎戸春龍先生書



むし 世^せ界^{かい}の

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

11月25日正午必着



もち
用 いる

小学三年

藤田幸春先生書



かんが
考 える

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

びん 小学一年・幼年



森戸春濤書

ねん土 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

| | |
|-----------|----------|
| たい風がふきぬける | 夕ぐれの歩道に冷 |
|-----------|----------|

小学五年

| | |
|----------|----------|
| しているつもりだ | 自分の欠点は自覚 |
|----------|----------|

小学六年

| | |
|-----------|------------|
| 恵によるものである | 現代の文明は古人の知 |
|-----------|------------|

中学

| | |
|-----------|------------|
| かかすかに聞こえる | 落葉の山に遠寺の晚鐘 |
|-----------|------------|

一般(級位)

| | | |
|--------------------------------------|----------------|---------------------------|
| 照る月の秋も殊にさやけきは散る紅葉ばを夜も見よとか(後撰集・読人しらす) | は散るお葉しばを夜も見よとか | 照る月の秋も殊にさやけきは散る紅葉ばを夜も見よとか |
|--------------------------------------|----------------|---------------------------|

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

| | |
|---|---|
| う | て |
| が | を |
| い | |
| を | あ |
| し | ら |
| よ | っ |
| う | て |

幼年

| | |
|---|---|
| を | み |
| | ち |
| あ | の |
| る | |
| こ | 右 |
| う | が |
| | わ |

小学一年

| | |
|---|---|
| に | ま |
| | い |
| え | 朝 |
| さ | |
| を | 小 |
| や | と |
| る | り |

小学二年

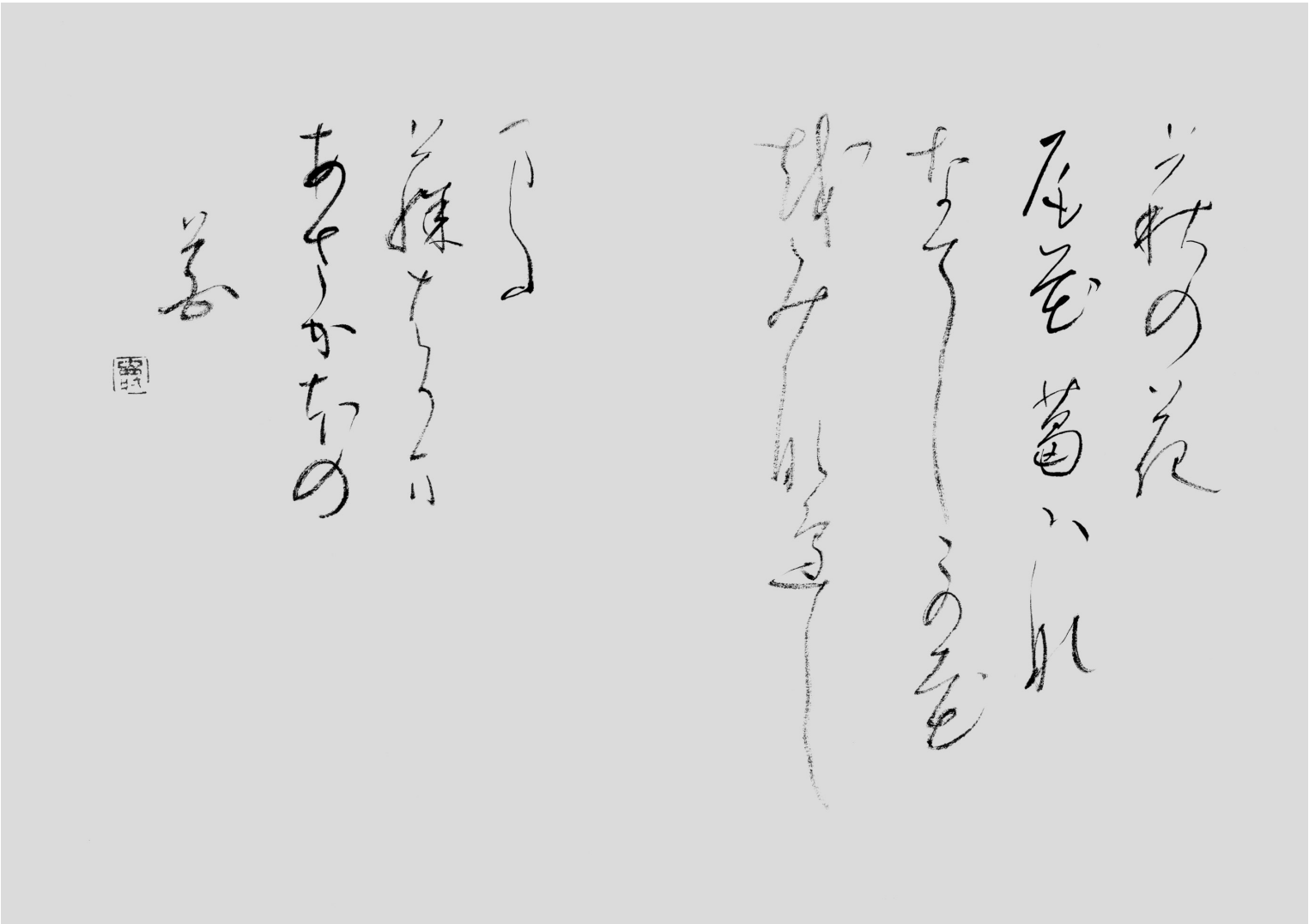
| | |
|---|---|
| ふ | 家 |
| じ | の |
| 山 | ま |
| が | ど |
| 見 | か |
| え | ら |
| る | |

小学三年

| | |
|---|---|
| る | 湖 |
| 伝 | に |
| 説 | か |
| を | ん |
| 集 | け |
| め | い |
| た | の |
| | あ |

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

萩の花 尾花葛はな
八那なでしこの花
おみなへしまた藤ばかり
万あさがほの花 (山上憶良・万葉集)